

パキスタン書店案内 ——イスラマバード・ラホール編——

須永 恵美子*

はじめに——パキスタンの出版事情

南アジアのウルドゥー語出版業界は、現在パキスタンのラホールに集中している。歴史的に見ると、ウルドゥー語の起源は、南アジアの地にイスラームが伝播した頃まで遡ることができる。当時は北インドの方言であるカーリー・ボーリーという、書き言葉のない口語が話されていた。そこへアラブからイスラームが伝来し、962年にはガズナ朝が成立した。以降、ゴール朝やデリー・スルタン朝など、イスラーム諸王朝で使用されていたトルコ語やベルシャ語の影響を受けてウルドゥー語が成立し、アラビア文字が採用された。1526年から始まるムガル朝では、ウルドゥー文学が形成され、特に詩が盛んとなった。また、文学活動の拠点がデカン高原から北インドのデリーへ遷り、ウルドゥー¹⁾という言語名が定着した。19世紀のイギリス植民地時代には、カルカッタにフォート・ウィリアム・カレッジが設立され、植民地行政のためにインド諸言語の研究がすすめられた。ウルドゥー語においても、辞書や文法書の編纂がおこなわれ、文法が確立し、散文が発達した。

1947年のインド・パキスタン分離独立では、デリーやデカン高原のハイデラバード、ラクナウといった「伝統的なウルドゥー語」の話される都市がインド側へ、比較的歴史の浅いラホールがパキスタン側へ分断される結果となった。現在まで、ウルドゥー語はこれらの都市を中心に、南アジアの各地で話されている。さらにこの言語は、パキスタンのみならず、広く南アジアのムスリムにとって、ムスリム・アイデンティティを構成する重要なシンボルとなっている [Rahman 2006: 111]。

現在のパキスタンでは、ウルドゥー語、地方で用いられている諸語（以下地方言語という）、英語が段階的に使い分けられている。まず、憲法で定められたパキスタンの公用語としてのウルドゥー語がある。この言語を母語話者としているのは国内でわずか8%に過ぎないが、初等教育の普及やメディアの発達に伴って、国中で通用する共通語として定着している。

また、パキスタンには、パンジャービー語、シンディー語、パシュトー語、バローチ語という4つの有力な地方言語が存在している。これらの言語は、それぞれパンジャーブ州、スインド州、北西辺境州、バローチスターン州で主に話されている。

さらに、イギリス植民地時代にはベルシャ語に替わって英語が公用語とされ、以来南アジアではこの言語が広く理解されている。パキスタンにおいても、高等教育や公官庁では英語が使用されている。これに伴い、一部の文学や宗教学を除いて、学術的な議論や出版は英語が主流である。

ラホールにおいてウルドゥー語出版活動が活発化したのは、逆説的であるが、イギリス植民地時代である。特に、1849年にラホールがパンジャーブ州の州都に制定されて以降、民間レベルの積

* 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

1) トルコ語で「軍隊」「軍営」を意味する *urdū* は、最古のもので12世紀中ごろのインド・ムスリムのテキストの中に確認できる [Lelyveld 1994: 57]。言語名としては、ムガル皇帝シャー・ジャハーンが建設した都シャー・ジャハーン・ナバーブ (オールド・デリー) を「ウルドゥー・エ・ムアッラー *urdū-e-mu'alla* (高貴なる軍営)」と呼び、そこで話されていた言語が「ザバーネ・ウルドゥー・エ・ムアッラー *zabān-e-urdū-e-mu'alla* (高貴なる軍営の言語)」と呼ばれたことに由来する。

極的な文芸誌の出版や創作が続いてきた〔山根 1994: 1009²⁾〕。ラホールの地元の人々の間で話されているのは、最有力地方言語のパンジャービー語である。しかし、もともと両言語は近似しており、パンジャービー語話者がウルドゥー語を習得するのは容易であった。また、イギリスと土着のパトロンによる出版・教育・啓蒙活動の促進によって、ウルドゥー語が定着し、これを受容することで文学者を生む下地が形成されていった〔山根 1994: 1007〕。

以下では、イスラマバードおよびラホールの書店・図書館を紹介する。なお、本案内のデータは、2005年11月から2006年10月と、2009年3月から4月にかけて筆者が行った現地調査の内容をもとに作成されている。

1. イスラマバード

イスラマバードは、1960年代にカラチからパキスタンの首都としての機能が移転された、新しい人工都市である。市内は基盤の目のように計画的に整備されており、それぞれのブロックの中心には、ショッピングエリアが配置されている。ブロックと通りの名前がわかれば、目的の場所までたどり着くことは容易である。

イスラマバード市内の書店の数は限られている。大学関係者や出版関係者に尋ねても、以下の3軒が必ず挙げられる。また、外国企業や大使館が集まり、外国人が多いため、英語を扱う書店が多いことが特徴である。

① サイド・ブックバンク (Saeed Book Bank)

営業時間：9:45～23:00

休業日：なし

電話番号・Fax：(電話) +92-51-2651656, 57, 58、(Fax) +92-51-2651660

ウェブページ：<http://www.saeedbookbank.com>

E-mail：info@saeedbooknamk.com, saeed@saeedbookbank.com

住所：F-7 Markaz, Jinnah Super, Islamabad

Post Box：515, Post Mall, F-7, Islamabad

店舗面積、取り扱い書籍数ともに、国内最大の書店。ジンナー・スーパーマーケット内の北西に位置し、銀行が並ぶエリアに近い。常時20万冊以上の洋書が揃うほか、ウルドゥー語の書籍数も多い。保管状態もおそらく国内最高である。外国製の文房具や印刷用の紙、画材なども扱っている。本店はベシャーワルにあるが、こちらは中規模書店である。海外発送を含め、オンラインストアで書籍を購入することも出来る。



店舗に入るとすぐに、地図やガイドブック、新書、ベストセラーコーナーがある。店の左手奥には文房具や語学書、辞書、美術系の大型本、右

2) 翌1850年に刊行された新聞『コーエ・ヌール (Koh-e Nūr)』を筆頭に、ウルドゥー語の新聞・雑誌が大量に出版された〔山根 1994: 1009〕。

奥には歴史、政治、社会、料理関係の書籍、児童書などが並ぶ。宗教関係の書籍はレジの裏にある。二階では医療、サイエンス関係の専門書、ウルドゥー語の書籍、教科書などが扱われている。

同じジンナー・スーパーマーケット内には、他にもいくつかの小規模書店がある。サイド・ブックバンクの向かいに Mr. Old Books があり、その裏のブロックには Old Books Collection が、マーケット中心のオープンカフェに面したところには Book Fair がある。いずれも英語の一般書が中心である。

② ミスター・ブックス (Mr. Books)

営業時間：9:00 ~ 22:00、(日曜) 10:00 ~ 22:00

休業日：なし

電話番号・Fax：(電話) +92-51-2278843, 45、(Fax) +92-51-2278825

ウェブページ：<http://www.mrbooks.com.pk/>

E-mail：mrbooks@isb.comsats.net.pk,

mrbooks@comsats.net.pk

住所：10-D, Super Market, Islamabad

スーパーマーケット内にある中規模の書店。一階には新聞、雑誌、料理本、英語の一般書・専門書、地図、二階にウルドゥー語の書籍、児童書、文房具が並ぶ。品揃えが良く、店員が親切である。オンラインストアもある。



③ ロンドン・ブック (The London Book Co.)

営業時間：9:00 ~ 21:30

休業日：日曜

電話番号・Fax：(電話) +92-51-2823852、

(Fax) +92-51-2201838

住所：3, Kohsar Market, F/6-3, Islamabad

コーサル・マーケットの中にある小規模書店。大使館エリアに近いので、英語の一般書を中心とし、外国人を意識した品揃えである。一階には国内外の雑誌、洋書のベストセラーがあり、二階には英語の書籍と児童書が並び、コーヒーショップが併設されている。ウルドゥー語の書籍は本棚二棚分のみである。



2. ラホール

パキスタンの出版業界は、ムガル朝時代には首都の一つであった古都ラホールに集中している。サンゲミールやヴァンガードなど、多くの出版社の本部はラホールに据えられている。今回紹介する書店は、店名に特定の出版社の名前を掲げていても、たいていは他社の書籍も扱っている。

パキスタンの各都市には、小さな書店や出版社、出版所が集中する「ウルドゥー・バザール」という地域がある。ここには、書店や出版所のみならず、製紙所、印刷所、文房具店、カード店など紙にまつわるあらゆる業種が集まっている。路地は細く、大量の雑誌を引くロバや馬、何万枚という紙を運ぶ2人乗りのバイク、子供の教科書を買いに来た親などで込み合っており、タクシーや乗用車で乗り入れることは困難である。ウルドゥー・バザールのすべてを紹介することは紙面の都合上不可能なので、現地を訪れる際には、是非一度足を運んで体験していただきたい。

④フィローサズ (Ferozsons (Pvt.) Ltd.)

営業時間：9:30 ~ 22:30、(日曜) 12:00 ~ 22:30

休業日：なし

電話番号・Fax：(電話) +92-42-6301196, 97, 98、
(Fax) +92-42-6369204

ウェブページ： <http://www.ferozsons.com.pk/index.php>

E-mail： support@ferozsons.com.pk

住所：60, Shakra-e-Quaid-e-Azam (The Mall Rd.), Lahore

1894年から続く老舗で、ラホールでは最大規模の書店。マール・ロードの州議会近くで、店の目の前にバス停がある。店内に入って右手に英語、左手にウルドゥー語の書籍が並ぶ。奥に児童書、DVD、文房具のコーナーもある。書籍の状態はほどほどに良い。著者はここで Aasiq Husain, 2008, *Qur'ān ī Urdū*, Book Corner, Jhelum を購入した。

ウルドゥー・バザール、DHA、PC ホテルなど、ラホールに6店舗を構えているほか、カラーチーやラーワルピンディーにも支店がある。オンラインストアもある。



⑤クラシック (Classic)

休業日：日曜

電話番号・Fax：(電話) +92-42-7312977、(Fax) +92-42-7323963

ウェブページ： <http://www.classicpublishers.com/>

E-mail： agha@classicpublishers.com

住所：42, Shakra-e-Quaid-e-Azam (The Mall Rd.),
Lahore

1957年から続く老舗。マール・ロードのリーガルチョーク (Regal Chowk) 近く。フィローサズから歩いて10分ほど。小型書店だが、雑誌や新聞は充実している。一階は雑誌と一般書、二階はイスラーム系の書籍が並ぶ。



⑥ヴァンガード・ブックス (Vanguard Books (Pvt) Ltd.)

営業時間：10:00 ～ 20:00

休業日：金曜

電話番号・Fax：(電話) +92-42-5763510, 5750579, 5870324, 7243779 (Fax) +92-42-5751025

ウェブページ：<http://www.vanguardbooks.com/>

E-mail：sales@vanguardbooks.com

住所：45, Shakra-e-Quaid-e-Azam (The Mall Rd.),
Lahore

マール・ロードのリーガルチョーク近く。入ってすぐ右手に児童書、奥の右側には自社出版の書籍が並ぶ。保存状態が悪いのか、古本か区別が付かない書籍も並んでいるが、英語の学術書の充実度は高いように思えた。

イスラマバードやカラチーにも支店があり、オンラインストアも整っている。



⑦オペラ・ブックセンター (Co-opera Art Gallery and Book Centre)

休業日：日曜

電話番号・Fax：(電話) +92-42-7321161、(Fax) +92-42-7282588

ウェブページ：<http://cooperabookcentre.com/>, <http://cooperaartgallery.com/>

E-mail：info@cooperaartgallery.com

住所：70, Shakra-e-Quaid-e-Azam (The Mall Rd.), Lahore

1963年から続く老舗。リーガルチョークにあるKFCの地下にあり、広い。マール・ロードをはさんで、クラシックの向かい。他で扱いの少ない、国立国語アカデミー (Muqtdra Qaumi Zaban) や、ウルドゥー促進協会 (Anjuman Taraqqi-e-Urdu) の出版物も取り扱っている。奥は、絵画中心のアートギャラリーになっている。



⑧サンゲミール (Sang-e-Meel Publications)

電話番号・Fax：(電話) +92-42-7220100, 7228143、(Fax) +92-42-7245101

ウェブページ：<http://www.sang-e-meel.com/>

E-mail : smp@sang-e-meel.com

住所 : 25, Lower Mall, Lahore 54000

1962年から続く国内最大の出版社サンゲミールの小売店。書物の保存状態は良い。サンゲミール（ウルドゥー語・英語両方）とオックスフォード大学出版の英語の書籍を扱う。ただし、サンゲミール出版の書籍がすべて揃っているわけではない。また、割引がない。ここから日本への郵送を代行させると、通常の倍額かかることがある。



⑨ウルドゥー・バザール

3,500から4,000軒の書店が連なる、アジア最大規模の書店街。ウルドゥーの名を冠しているが、国内で出版された英語の書籍も揃う。突出して大型の書店はなく、客が数名入るといっばいになる小規模店舗が連なる。一軒の書店ですべての分野をカバーしていることはまずない。店員は隣近所の書店の在庫まで把握しており、直接取ってきてくれるか、紹介してくれる。どこの店主も非常に親切で、リストを作って渡せば、数日で探してくれる。バザールの中にはイルミー Ilmi、フィロースンズ Ferozsons、オックスフォード大学出版 Oxford など、国内有数の出版社の小売店もある。



⑩ターミーレ・インサーニヤト (Maktaba Tamir-i-Insaniat)

営業時間 : 11:00 ~ 13:00, 14:00 ~ 19:00

休業日 : 日曜

電話番号・Fax : (電話) +92-42-7310530, 7237500

住所 : Ghazni Street 2, Urdu Bazar, Lahore

ウルドゥー・バザールの中に並ぶ一書店。ウルドゥー・バザールの外に出版社を構えている。店舗自体は小さいが、店員が非常に親切で、他の書店に比べても割引率が良い。著者はこの店主にリストを渡し、50冊ほどの書籍を一括して購入した。さらに、手数料なしで郵送の手配もしてくれた。ただし、取り扱っているのは9割方ウルドゥー語の書籍である。



⑪ ヴァラエティ・ブックス (Variety Books)

営業時間：11:00～23:00、(日曜)16:00～23:00

休業日：金曜に昼休みあり

電話番号・Fax：(電話)+92-42-5758355

ウェブページ：<http://www.libertybooks.com/>

住所：Liberty Market, Gulberg, Lahore

リバティ・マーケットの東南の端にある3階建ての大型書店。今回紹介する書店の中で、唯一新市街地側にある。1階にはDVDや文房具、2階には英語の一般書、3階には教科書や理系の専門書、ウルドゥー語の書籍が並ぶ。割引はないが、本の状態は良い。

カーナーに支店の多いLiberty Booksの系列で、オンラインストアもある。



⑫ パンジャーブ大学中央附属図書館 (Punjab University Library)

開館時間：8:00～21:00、(金曜)8:00～12:30, 14:30～20:00

休館日：日曜

電話番号・Fax：(電話)+92-42-9231126, 9230834, 9230863、(Fax)+92-9230892

ウェブページ：<http://www.pulibrary.edu.pk/>

E-mail：info@library.pu.edu.pk, ask@library.pu.edu.pk (リファレンス)

住所：Punjab University Library, Quaid-e-Azam Campus (New Campus), Lahore

パンジャーブ大学の附属図書館。入館は自由だが、何らかのIDカードが必要。書籍を借りるためには、メンバー登録をする必要がある。基本的に閉架式で、OPACによる書誌管理が進められている。

館内にコピーがあるが、著作権の管理は厳しく、一度に最大50ページまでと決められている(1ページ1米ドル)。中央附属図書館の他にも、各学部が図書館を所有している。ウルドゥー語学部、芸術学部、薬学部、IT学部は、旧市街のオールドキャンパス(オリエンタルカレッジ)に校舎がある。

⑬イクバルアカデミー付属図書館 (Iqbal Academy Library)

開館時間：8:30～17:00

休館日：日曜

電話番号・Fax：(電話) +92-42-6314510, 9203573、(Fax) +92-42-6314496

ウェブページ：<http://www.iap.gov.pk/>

E-mail：info@iap.gov.pk

住所：6th Floor, Academy Block, Aiwan-e-Iqbal Complex, Egerton Road, Lahore

イクバルアカデミーという政府系研究機関の併設図書館。ホリデイ・インの向かいで、白い大きな建物。入館自由(記名式)。同機関では、パキスタンの「建国詩人」イクバル(Muhammad Iqbal, 1877-1938)に関する出版や研究会を行っており、図書館の蔵書も彼に関する研究書が中心。



⑭カーイデアーザム・ライブラリー (The Quaid-e-Azam Library)

開館時間：8:00～20:00

休館日：日曜

電話番号・Fax：(電話) +92-42-9201007、(Fax) +92-42-9201004

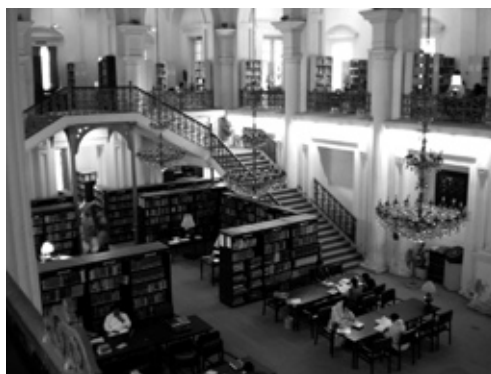
ウェブページ：<http://www.brain.net.pk/~qal/>

E-mail：qal@brain.net.pk

住所：Quaid-e-Azam Library, Bagh-e-Jinnah, Shakra-e-Quaid-e-Azam (The Mall Rd.), Lahore

国内最大級の図書館。メンバー制だが、推薦状があれば入館・閲覧は可能。10万冊以上の蔵書数を誇り、ウルドゥー語、英語のほか、オリエンタル・セクションにはペルシャ語、アラビア語の資料もある。メンバーに対しても貸し出しはしておらず、館内閲覧とコピーが可能。インターネットや、オーディオビジュアルのための設備もある。

メンバーになるためには修士以上の学位が必要で、学生50ルピー、研究者・一般150ルピーの登録料がかかる。この他に、永久会員などの区分もあり、詳細はホームページに掲載されている。



3. 書籍の郵送について

パキスタンで購入した書籍は、GPO（郵便局）から日本に郵送することが出来る。郵送方法には、船便、SAL 便、空輸便、の3種類がある。ひとつの荷物で30キロまで送ることができ、ダンボールに入れた状態で郵便局に持ち込むと、それを白い布で包み、糸と蠟で封をしてくれる。また、5キロまでなら、日本の「ゆうメール」（旧冊子小包）と同様の書籍専用割引郵便もある。こちらは厚手の封筒で送ることが可能である。

ただし、郵便局によって郵送方法や基準が異なる場合があるので、事前に利用する局の窓口で確認することが必須である。筆者の経験では、小包で重量の上限が20キロまでに制限されていたり、白い布を局内においていないことや、大量輸送のために現地の保証人が必要になるケースがあった。船便の場合は数ヶ月、SAL 便の場合は2週間程度、空輸便の場合は1週間～10日程度で日本に着く。目安としては、空輸便の場合、5キロで2,000ルピー（約2,300円）、10キロで3,200ルピーであった。SAL 便の場合、23キロで6,205ルピーかかった。詳細な料金表は、パキスタン郵便のホームページ（www.pakpost.gov.pk）で確認することが出来る。SAL 便などの小包については、荷物の預かり証が発行され、これをもとに荷物の運送状況を追跡することも出来る。

また、郵便局で書籍の中身をチェックされることもある。明確な基準はないものの、「アンティークブック」を国外に持ち出すことは禁止されている。場合によっては、その場で没収されてしまうこともある。情勢によっては地図が国外持ち出し禁止になることもある。さらに、ごく稀にはあるが、郵便事故もあるので、貴重な資料は手荷物で持ち帰りたい。

なお、購入した書店に発送を代行してもらうことも出来る。ただし、郵便局に直接持ち込む場合よりも、1.5倍から2倍の料金がかかることもある。

⑮国際郵便局（International Mail Office）

電話番号・Fax：（電話）+92-51-1111117

住所：Jinnah Market, F-7, Islamabad

サイイド・ブックバンクの近くにある大型郵便局。外国人の利用が多く、国際便を発送する手続きがスムーズである。地元のタクシー運転手などには「国際」郵便局であることが知られておらず、「ジンナー・マーケットのGPO」と言った方が通じる。国内便も取り扱っている。

⑯イスラマバード中央郵便局（Islamabad Main Post Office）

営業時間：9:00～13:00, 13:30～22:00

休業日：日曜

電話番号・Fax：（電話）+92-51-9201184

住所：Melody Market, G-6, Islamabad

⑰中央郵便局（Main Post Office）

営業時間：9:00～13:00, 13:30～21:00

休業日：日曜

電話番号・Fax：（電話）+92-42-9211318

住所：Shahra-e-Quaid-e-Azam (The Mall Rd.), Lahore

マール・ロードの博物館近くにある郵便局。イギリス植民地時代に立てられた、赤レンガの美し

い建築様式が有名である。Post Office よりも GPO (General Post Office) の略称の方が通りが良い。

おわりに——資料を探すコツ

パキスタンの書店や図書館では、往々にして配架順が不ぞろいで、不慣れな外国人が特定の書籍を探し出すのは非常に困難である。本棚を直接閲覧することが出来ず、司書や店員に必要な書籍を依頼してカウンター奥の書棚からとってもらうこともある。しかし、いずれの書店の店員も、在庫を詳細に把握しており、非常に親切である。必要なジャンルや研究テーマを話すと、さまざまな関連書籍を引き出してくれる。連日書店に通いつめ、思わぬ稀少本に巡り合ったときに感激はひとしおである。

パキスタンでは日曜日が会社や学校の休日とされており、書店もたいてい閉まっている。平日の書店の営業時間は、午前11時から午後7時ぐらいまでである。個人商店では午後1時から3時ぐらいまで、休憩を取る場合が多い。金曜日は午後の1時から2時頃まで閉店していることが多く、一方で政府系の機関は午前のみ開いている。また、近年情勢不安によりたびたびストライキやデモが発生しており、このような際も閉店していることが多い。

さらに、大型書店や図書館では、辞書類を含めた個人の手荷物・書籍を持ち込めないことにも留意されたい。

また、今回紹介した中では、ほとんどすべての書店で書籍の割引をしてくれる。割引率は10～20%ほどで、自社・他社の書籍に関係なく、地図を除いたすべての書籍に対して割引をしてくれるので、有効活用されたい。

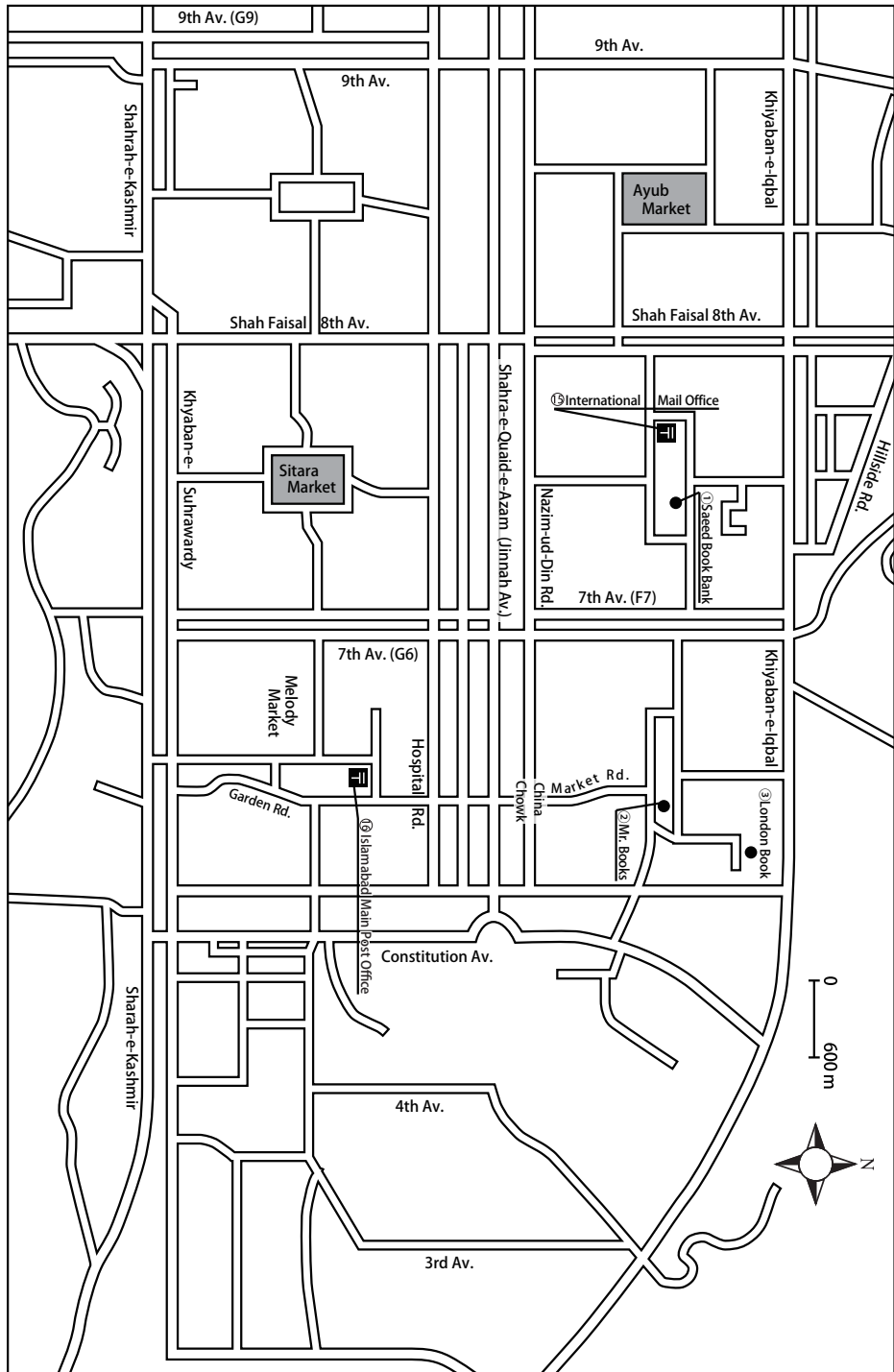
※本案内の調査に当たっては、「大学院教育改革支援プログラム」による「研究と実務を架橋するフィールドスクール」から費用支援を受けた。

参考文献

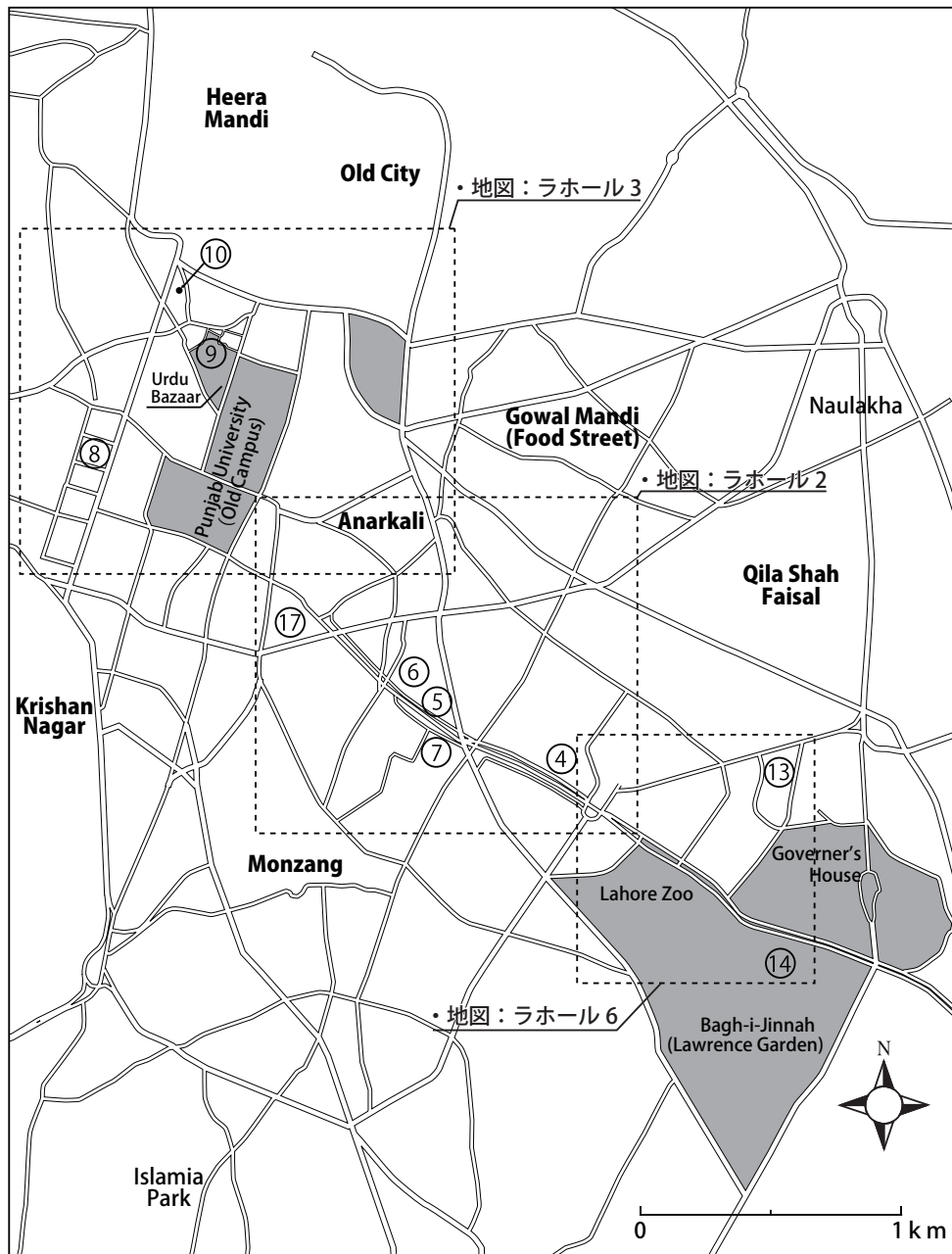
- 山根聡 1994「二〇世紀初期ラーホールにおけるウルドゥー文学の出版状況(1)」『印度學佛教學研究』42(2), pp. 1009-1013.
- 2004「国語ウルドゥー語とその文学の評価をめぐる地域差」黒崎卓・子島進・山根聡(編)『現代パキスタン分析』岩波書店 pp. 121-150.
- Lelyveld, David. 1994. "Zuban-e Urdu-e Mu'alla and the Idol of Linguistic Origins," *Annual of Urdu Studies* 9, pp.57-67.
- Rahman, Tariq. 2006. "Urdu as an Islamic Language," *Annual of Urdu Studies* 21, pp.101-119.

地図

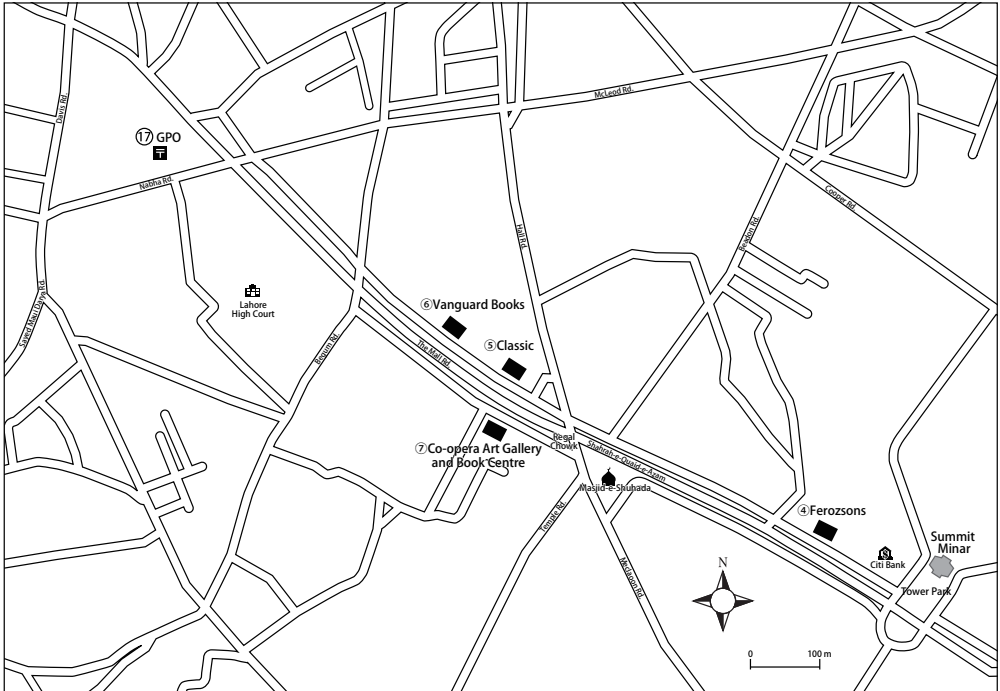
イスラマバード



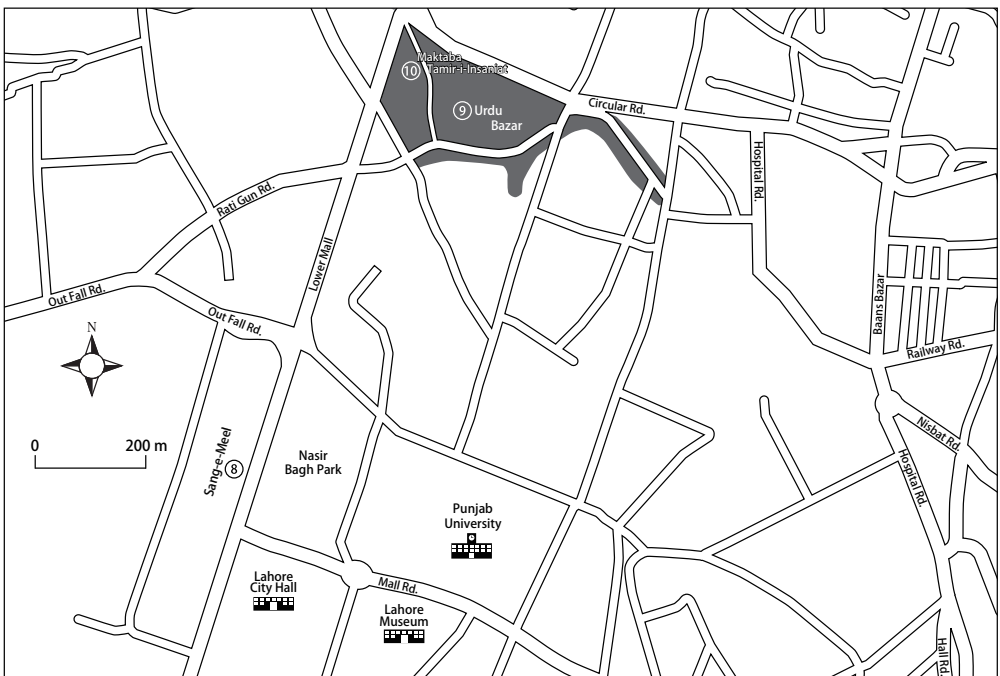
ラホール 1



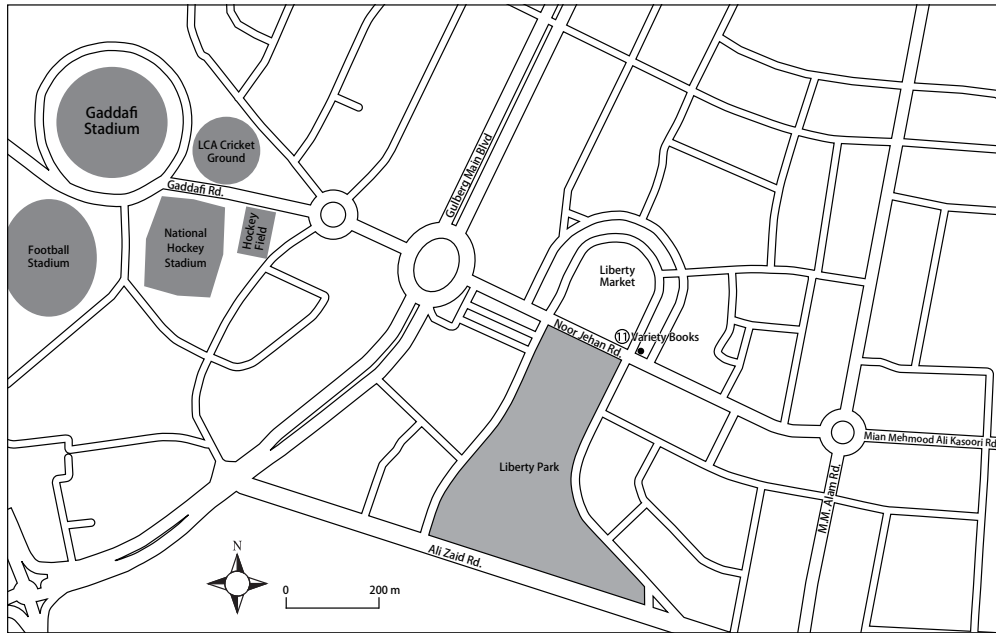
ラホール 2



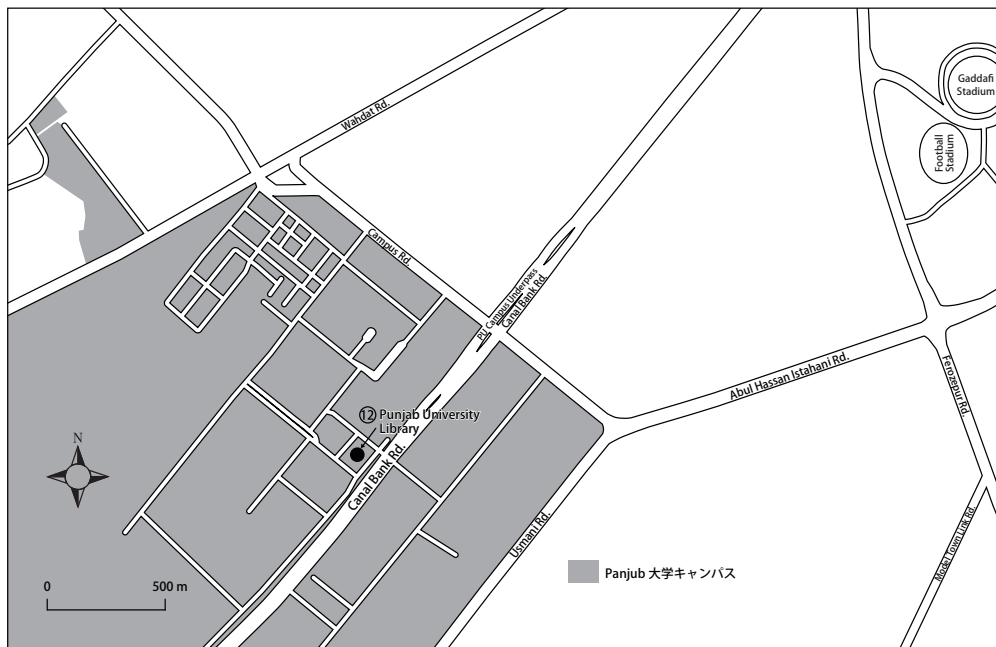
ラホール 3



ラホール 4



ラホール 5



ラホール 6

